

# ストーリーテラーの俳優

(Philippe Aymard/translation japanese Not Ichito)

ストーリーテラーの俳優のように 逃避を渴望してる  
狂おしいまでの欲望を 満たすことを厭わない  
台本を忘れ 行動する喜びにひたる 見知らぬ土地で 空想に生きるため

ストーリーテラーの俳優のように 情熱に焦がれてる  
原則を手放し あらゆる慣習も気にしない  
恐れは解き放つ 沈黙への恐れも 夢を叶えるため 妄想は踊ってる

ストーリーテラーの俳優のように 自由を渴望してる  
作家の衣装をまとい 舞台上上がる  
宿命づけられた ストーリーを書くため 自分を演じ 心の声のままに演じるため

ストーリーテラーの俳優は 綱渡りの名人のように 綱も張らずに歩いていく  
想像すれば 月まで行って 中に収める 想い描いた綱が 彼を運んでくれる  
紐を描いたら つま先をのせる 黄金の粉末でできた 見えないインクは  
流星が 天に置いたもの 好きなどころを歩くため 永遠を 登るため

ストーリーテラーの俳優のように すべてをひっくり返す  
運命に頑なに 場違いなところに居合わせる  
クラウンは自己流に 針小棒大誇張して 中身を全部ぶちまけて 存在を保ってる

絨毯に足を取られたら 何事もなかったふりして 元通り  
空足踏んで転んだら いつも 優雅な素振りで 姿勢を正す

感情を抑えたら かえって見え見え 胸に秘めた痛みが 明らかに読み取れる  
体には刻印され 鼻には映る 真っ赤に染まり 幸運が微笑む

愛が現れ 急いで彼は追いかける ああ またしても しっかり扉にぶつかった 傷のある顔面  
笑われたってへっちら 猫はいつだって 落ちても四本足で立つんだ

魔法にかかったように 離れ業をやったのける 気力を絞り 苦しみを乗り越える  
無我夢中で つかむのは 王女を見たとき 宙に舞った 彼の帽子

彼は人生の 酸いも甘いも知っている 混ざりあう 喜びと哀しみ  
不器用な世界の分までも 彼の内にあり 黙認してる

全ての失錯行為を 美に昇華する ラストは花束を 贈ることを忘れない  
クライマックスで舞台を去れば 花火はないけど 一輪のバラを  
観衆は立ち上がり 歓呼を浴びせる だってそれが生き甲斐だから:拍手喝采の大嵐